

関係者各位

稲葉光國追悼文集刊行会

実行委員長 古谷 慶一

「稲葉光國追悼文集」（案）の刊行に向けてのご協力をお願い

【趣旨】

初夏を迎え、緑が日一日と濃くなってまいりました。皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、NPO 法人民間稲作研究所理事長であった稲葉光國氏が逝去されてはや5ヶ月が過ぎました。稲葉氏は、1997年に農業高校の教師を辞して民間稲作研究所を設立し、爾来、在野の立場からとくに有機稲作の栽培技術確立に尽力してこられました。その姿はまさしく我が命を注ぎ込むといえるものでした。

3年後の2000年にNPO法人となり、本格的に研究・普及に取り組むにあたって活動領域を定めました。「環境保全型稲作の技術開発」を核として、水田生態系の復活、米の食文化復権と健康のためのシンポジウム・研究、交流事業、資材開発と販売、連続講座の開催・研修生受入れ制度・出版事業、有機農産物の認定事業、がそれでした。見ての通り間口広く奥行き深い総合的な活動内容となっています。その実現のために、日本はのみならず東アジアの仲間との交流を通じて、事業を展開してきました。その成果は、兵庫県豊岡市のコウノトリ育む農法や千葉県いすみ市の有機米100%の学校給食の実現、ブータン王国の除草剤を使わない有機100%の国づくりの実現に表れています。

稲葉氏は寝る間も惜しみ、南船北馬あるいは八面六臂の日々を送られてきました。大人しくしてられない性格が、黄泉の国への旅たちを早めたようにも思います。私たちは、稲葉氏の構想を引き継ぎさらに発展させることが、我が国の農業発展にも大いに寄与するものと考えております。

地道にコツコツと実践されてきた稲葉氏からは、技術者の側面のみならず啓蒙者、教育者など多方面から学ぶところが大きく、その功績を多くの方々に知っていただきたく追悼文集を刊行することといたし、実行委員会を設立しました。

【「稲葉光國追悼文集」（仮称）の概要】

1. 体裁：A4版、200ページ程度、白黒印刷、表紙と口絵写真はカラー
2. 発行部数：500部
3. 刊行時期：2021年12月（予定）
4. 出版費用：約100万円

【ご協力をお願いしたい事項】

みな様方には2つのお願いがあります。1つは刊行財源を確保するために拠金をしていただきたいこと、もう1つは追悼文を寄せていただきたいことです。詳細は裏面に示しました。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 拠金

- ①拠出金額 1口以上をお願いします（@2,000円/口） 目標：500口
- ②振込先 下記の口座番号・加入者名にて振込んでくださるようお願いします。
口座番号：00140-9-739762 加入者名：日本の稲作を守る会（稲葉光國追悼文集刊行会）
※経理の都合上、研究所と表裏一体で事業を展開している「日本の稲作を守る会」の口座を使用することをご了解願います。
- ③期限 2021年7月31日

2. 追悼文

- ①内容 タイトルを付け自由にお書きください。
- ②文字数 制限はありません
- ③締め切り 2021年8月31日
- ④送付方法および送付先 電子データ・Fax・郵送などで、下記のあて先をご利用ください。
- (1) メール：saito@inasaku.org
- (2) Fax：0285-37-7366
- (3) 郵送：329-0529 栃木県上三川町下神主 233-1
NPO 法人民間稲作研究所有機農業技術支援センター 斎藤一治
- ⑤刊行 2021年12月（予定）

以上につきまして、多くの皆様方のご支援・ご協力をいただき、稲葉光國氏の生前の姿をきちんと伝えられる文集を刊行したいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

2021年5月吉日

【発起人代表】

実行委員長 古谷 慶一 [NPO 法人民間稲作研究所 副理事長]

顧問 高橋 邦夫

[(一社) 民間稲作研究所有機農業認証センター 元代表理事]

【問い合わせ先】

事務局 斎藤 一治

329-0529 栃木県上三川町下神主 233-1

NPO 法人民間稲作研究所有機農業技術支援センター

メール：saito@inasaku.org 電話・Fax：0285-37-7366

人見 多恵

329-0526 栃木県上三川町鞆堂 72 NPO 法人民間稲作研究所

メール：hitomi@inasaku.org 電話・Fax：0285-53-1133